めじかじ通信 No.131

長野県で唯一の多様な技法のレース編み講師。アメリカンフラワーと共に普及したい

レース編み・アメリカンフラワー創作作家 小山 納津美（なつみ）さん（51歳）

「ほかの人と同じはイヤで、何でも自分で作りたくなっちゃうんです」。小山納津美さんが制作するのは「アメリカンフラワー」とレース。どちらも1本のワイヤーや糸から形づくり、自分だけの世界が広がっていくところが小山さんの性分に合っている。

20年ほど前にビーズアクセサリーを作り始めた小山さん。もっと一から作りたいと思っていたところに出会ったのが、ワイヤーで花弁や葉の輪郭を作り、専用の樹脂液で膜を張ってパーツを作り、整えて花を完成させる「アメリカンフラワー」だった。松本市の教室に通い、今では師範1級の資格を持つ。作った花をレースなどで飾り付けているうちに、そのレースさえも自分で作りたくなった。「日本手芸普及協会」に問い合わせ、長野県内に教室がないため群馬県まで見学に行った。一目で習いたいと思った小山さんだったが、遠いので先生には反対されたという。それでも小山さんは「中途半端はイヤ。やり通したい」と、前橋市の教室まで、月に2度5年間通い、協会が指定する8種類のレース技法を習得。車で送迎してくれたご主人の理解と協力あってのものだった。

「一つの作品に行き詰ったら、他のレース技法やアメリカンフラワーの制作に移るので飽きることはないです」と楽しそう。「アメリカンフラワー」は展示会のために年に一つは大作を作る。レースは完成に数か月かかる作品もある。新しい技法も積極的に取り入れ日々勉強。恩師の教室に赴き指示を仰ぐこともある。「私は恵まれているんです。恩師はその道でトップクラスの方々なんですよ。教えていただいたことを、今度は私が次の世代に伝えていかなければと感じます」。

現在は小諸市と長野市に教室を持ち、まちなかマルシェなど小諸のイベントをはじめ、各地のクラフトフェアに出展し手芸の魅力を伝えている。「私は習いたくても近くに先生がいなかった。県下や近隣県でお声が掛かればなるべく出向こうと思っています。レースに興味を持つ人が増え、県内を飛び回る講師になるのが夢です。」

（取材・文　村松 マヤ）

「レースは難しいと思われるかもしれませんが、技法も道具も様々で、気軽に始められるものもあります。やってみたいという気持ちを大切にして、お問い合わせください。」（ARTES FLOR　☎080-5108-4449）
最新情報は、インスタグラム（https://www.instagram.com/artesflor723/）に掲載しています。

Instagram

レース編みとアメリカンフラワーがマッチした小山さんの作品

ゆらさんの四季の薬膳

冬は温める＆蓄える

冬眠しエネルギーを温存する動物や余分な葉を落として春を待つ木々のように、人も寒い冬の間はエネルギーを蓄え腎臓への負担を減らすことが大事です。そのためにはまずからだを温めることで、冬出回る白菜、大根、人参、かぶ、ほうれん草、ネギ、生姜、ニラ、にんにく。鮭、海老、ブリ、羊肉も温性のもの。さらに信州の冬の食卓の定番・酒粕は血流をよくし、ゆずには消化を助ける働きがあります。

さて、師走の忙しい時期、簡単で冬にぴったりの山梨県の郷土料理「おつけ団子」を紹介します。おつけとは、みそ汁のこと。白菜やかぼちゃ、人参、ほうれん草など冬野菜を食べやすい大きさに切り鍋に。煮立ったら鰹節を多めに加え煮る。その間に小麦粉（1人50g）を水（1人50cc）で溶き、はしでちぎって入れ、味噌で味付け。団子が浮いてきたらできあがり。インスタントの味噌汁でもできるので、ぜひお試しを。1月は、温か続きで鍋といきましょう。

（国際中医薬膳師 小清水由良）